



2019
第6回福岡県
木造・
木質化
建築賞



ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産だけでなく、おいしい水や新鮮な空気の供給、土砂災害の防止など、さまざまな面から私たちの安全・安心な暮らしを支えています。

この森林の持つ役割を持続的に発揮させるためには、利用期を迎えた森林資源を、適切に管理しながら有効に活用していくことが必要です。

このため、県では、「福岡県農林水産振興基本計画」に基づき、県有施設の木造・木質化を進めるとともに、県産木材を活用した家具の販路開拓を支援するなど、県産木材の需要拡大を図っています。

また、これらの取り組みに加え、民間の建築物や市町村施設についても木造・木質化を推進するため、そのモデルとなる優れた建築物を「福岡県木造・木質化建築賞」として毎年表彰しており、今年で第6回を迎えました。



福岡県知事
小川 洋

今回も、駅舎や観光拠点施設、事務所など幅広い分野から応募いただき、選考委員会の厳正な審査を経て、大賞2点、優秀賞3点、特別賞2点、奨励賞2点、計9点を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。受賞された建築物は、いずれも木のぬくもりや美しさ、柔らかさといった、木材ならではの長を生かした素晴らしいものです。近くにお越しの際にはぜひともご覧になり、木材の良さを感じていただきたいと思います。

県では、引き続き、県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、選考委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

総評

福岡県で大きな被害を受けた2017年九州北部豪雨や2018年の西日本豪雨、2019年の台風被害など、かけがえのない多くの人命を奪い、今なお被災者の生活の復旧がままならない激甚災害が毎年のように起こっています。このような記録的異常気象が立て

続けに起こっているのは日本だけではありません。2019年末に開催された国連気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）では、地球環境の危機的背景のもと、次世代を担う世界の若者からの叫びも特徴的でしたが、日本に対しては石炭火力発電の推進に対する批判が多く聞かれました。2020年の環境配慮型の東京オリンピック開催を契機に、森林環境保全の推進とともに都市部にも木造・木質化建築による炭素貯蔵型の「第2の森林」を増やすことが我が国でも求められています。福岡県木造・木質化建築賞による木材利用の普及啓発がその一助になることを願っています。

さて、今回の第6回福岡県木造・木質化建築賞では、23点の応募があり、その内保育所が8点、戸建て住宅が7点と大半を占めていました。いずれも2階建て以下の低層の建築物であることから、木造・木質化の法的制限を受けにくい一方、子どもたちや家族が快適で安らげる空間が求められます。まさに木の良さを発揮できる用途です。



福岡県木造・木質化建築賞
選考委員会
委員長 藤本 登留

そのほか5階建て集合住宅や駅舎の木造建築、屋外施設、都市部のRC造事務所の木質化など、チャレンジングな木材利用で国産材の用途拡大につながる作品があるなど、広く県民の皆様に紹介したい素晴らしい作品ばかりでした。

第1次選考では、6名で構成する選考委員会によって2019年11月20日に書類審査を実施し、協議および投票によって現地審査の対象に10点の建築物を選出しました。これらの建築物の用途は、戸建住宅、共同住宅、保育所、観光拠点施設、駅舎、事務所などでした。

その後、最終選考を12月23日、26日の2日間にかけて実施しました。対象の10点の建築物を現地審査したうえ、選考委員会で協議および投票によって木造の部、木質化の部の大賞、優秀賞のほか、特別賞、奨励賞の全9点の受賞建築物を決定しました。木造の部の大賞は、重要文化財として可能な限りの復原と、景観に配慮した補強などの保存修理工事が行われた駅舎です。木質化の部の大賞は、木質のルーフトラスと外装ルーバーが特徴的な、ダム湖畔に建つ観光拠点施設です。

そのほか、優秀賞が木造の部2点と木質化の部1点、特別賞が2点、奨励賞が2点決定しました。令和という新たな時代における最初の受賞建築物をここにご紹介します。

最後に、応募していただいた皆様、現地審査にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

福岡県木造・木質化建築賞

表彰の目的

県では、充実した森林資源を有効に活用し、森林の世代サイクルの回復を図るため、住宅や公共建築物等における木材の利用や、県有施設の木造・木質化を積極的に推進しています。

そのような中、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

賞の対象

県産木材の需要拡大を図るため、公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

賞の部門

- 木造の部(大賞・優秀賞)
- 木質化の部(大賞・優秀賞)
- 特別賞
- 奨励賞

主な選考基準

- 国産材を積極的に活用し、林業振興に寄与しているもの
- 木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造・木質化に波及効果があるもの

選考委員

役職	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部 建築デザイン学科教授
委員	松尾 智昭	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	岩尾 款	西日本新聞社報道センター政経部 編集委員
委員	古賀 央	福岡県農林水産部林業振興課長

木造の部 大賞

門司港駅

所在地：北九州市門司区



建築主 | 九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 青柳俊彦
設計者 | 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 理事長 高塩至
施工者 | 九鉄工業株式会社 代表取締役社長 古賀徹志
建築物の用途 | 駅舎等
構造・規模(階数) | 木造一部鉄骨造・地上2階
延床面積 | 1,361.80㎡

設計趣旨 鹿兒島本線門司港駅は、門司港レトロ地区にあり、昭和63年に現役の駅舎として初めて国重要文化財に指定された駅舎である。大正3年に建設された駅舎であるが、経年による老朽化や蟻害等により大規模な修理が必要となったため、建設当初の姿を基本に復原を行った。復原を行う際には、丁寧な分解調査や資料収集を行い、木材を含めた再生可能な既存部材を、可能な限り使用のうえで当時の姿に再現することに注力するとともに、耐震補強による安全対策の実施など、現役駅舎としての機能確保にも配慮を行った。また、柱・梁等の構造部材のほか、内部の天井・壁仕上・階段に木材を使用し、大正ロマンを感じられる格調高い空間の創出を行った。

講評

大正時代に全国で54駅あった最高ランクの1等駅舎の中で、現存するのは東京駅と門司港駅の2駅だけです。現役の駅舎として初の重要文化財となった門司港駅は、老朽化にともない保存修理工事が7年にわたり実施されました。復原の根拠となる資料の調査や構造・材質の解析が詳細に行われ、できる限り忠実に創建当時の洋風木造モルタル建築が再現されています。復原に際しては木材部材もできる限り既存部材を再利用するとともに、そうでない場合も従来の樹種を踏襲し再現されています。これは歴史的建造物の当時の嗜好や建築技術を未来に引き継ぐために重要な復原作業になります。さらに、耐震補強以外の構造材や化粧材にも積極的に木材を活用しつつ、営業されている駅舎としての安全面にも配慮されています。再現された2階の食堂や貴賓室などは、そのデザインだけでなく内装部材の材質に至るまで、大正の時代にタイムスリップしたような、現在では見ることが難しい部屋になっています。

木質化の部 大賞

五ヶ山クロス ベース

所在地:那珂川市



写真撮影:Seinosuke Kaneda

建築主 | 那珂川市
設計者 | 株式会社yHa architects 代表取締役 平瀬祐子、平瀬有人
施工者 | 株式会社小柳技建 代表取締役 富澤善和
建築物の用途 | 店舗・飲食店・展望デッキ
構造・規模(階数) | 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・地上1階
延床面積 | 889.42㎡

設計趣旨

本計画は、2018年に竣工した県内最大の五ヶ山ダム湖周辺の整備事業の一環として、2016年9月に那珂川市が観光振興を目的に公募した観光拠点施設プロポーザルにおいて選定されたプロジェクトである。福岡都市圏から1時間圏内の新たなアウトドア拠点として、多くの人びとの来訪が期待される。ダム湖への眺望を間近に感じられる天然木デッキによるルーフテラスを設け、人びとが休憩できるベンチのような緩やかな大階段とスロープにより、駐車場とルーフテラスがスムーズに繋がる、ランドスケープと建築が連続した一体感ある風景を創出した。ルーフテラスの駐車場側には、那珂川産材ヒノキを水蒸気式高温熱処理した天然木のルーバーを設け、五ヶ山エリアの新しいシンボルとなるよう、山並みに呼応した形状とした。構造は両サイドの大階段と厨房コアを鉄筋コンクリート造、それ以外を鉄骨造の柱・梁とした、橋のような土木的建築である。ダムという土木的な大きなスケールに調和するよう、繊細すぎない大らかに粗い解像度のディテールによるランドフォームアーキテクチャーを目指した。

講評

福岡都市圏に近いアウトドア観光の拠点施設となる一階建てRC造建築物です。背振山系と隣接するダム湖のランドスケープと一体感をもつデザインになっています。建物全面に天然木のデッキからなるルーフテラスを持ち、そこからは山並みを背景にダム湖が一望できます。屋外ルーフの床となるデッキ材には信頼性の高い高耐久木材が必要です。ここでは薄いベニヤをフェノール処理して接着積層した製品が使われています。つまり、薬剤が入りにくい内層まで十分防腐処理された高耐久デッキ材料になっています。また、正面壁面には地域内ヒノキ材を熱処理により防腐加工したルーバーが設置されています。薬剤を使わず水蒸気熱だけの環境配慮型の保存処理を施す中で暗色化した材色も、周囲の背景に調和しています。地域の森林組合との連携のもと、設計に合わせて公有林ヒノキの伐採量を事前協議するなど、ヒノキルーバー材のスムーズな調達が実現できています。

以上のように、デッキ材・ルーバー材ともに高度な保存処理材が活用されており、今後の外装木質化の参考となるモデル的な建築です。



写真撮影:Yousuke Harigane

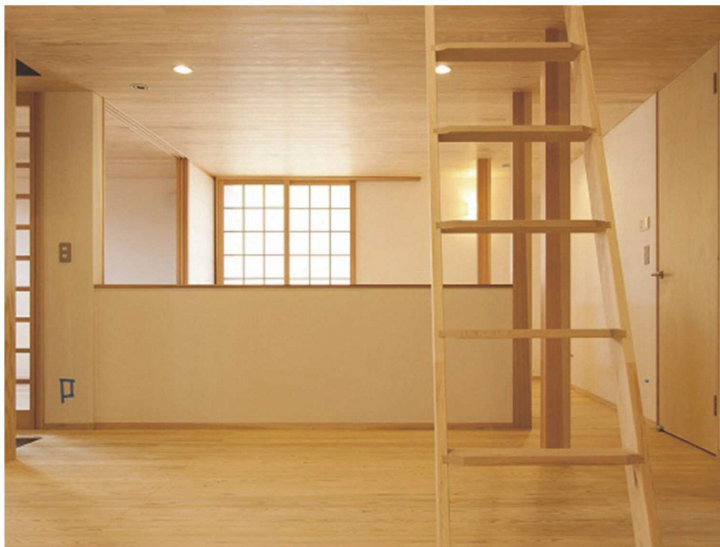


写真撮影:Takeshi YAMAGISHI

木造の部 優秀賞

くるめ和の光と暮らす家

所在地:久留米市



写真撮影:廣川絵里

建築主 | 個人
設計者 | でんホーム株式会社 代表取締役社長 藤本香織
施工者 | でんホーム株式会社
建築物の用途 | 住宅
構造・規模(階数) | 木造・地上2階
延床面積 | 145.73㎡

設計趣旨 水天宮通りは寺など残る文化的なエリアにも関わらず、準防火地域である。準防火地域でガス併用とし、文化的なデザインも残しながら、いかに自然素材で快適に暮らす住まいを設計するかに注力した。様々な設計の工夫を凝らし、軒天やサッシなどに木を使い自然素材の外壁を使う事を実現した。また、ゆたかな植栽・石畳・建物のファサードに日本らしい縦格子を施すなどの工夫により、自然素材のもつ親しみやすくやわらかな魅力を形作り、歴史的な街並みを壊す事なく緩やかに調和する外観を目指した。

内装には、国産ナラ床材、九州産杉床材を選定した。オープンキッチンには、不燃処理を施したヒノキの天井板を使い、その他の部屋には九州産の杉を用いた。また、内障子や格子戸など手作りの造作建具や造作家具にも様々な木材を使用した。現代的なカーテンではなく、伝統的な障子を多用し、吹き抜けの上部からも障子からの柔らかな光が落ち、どこか懐かしい落ち着いたインテリアとなっている。表しの構造材には、美しい木目のために4寸の杉の芯去り材を使った。

建築主をはじめ、地元の大工・製材所・左官・建具職人等生産者と設計者の協同により、木の持つ本来の魅力が十分に発揮される建築となった。

木造の部 優秀賞

コアのある家

所在地:糸島市



写真撮影:針金洋介

建築主 | 個人
設計者 | 株式会社ろく設計室 代表取締役 平田大和
施工者 | 住まいの創建 代表 豆塚晃喜
建築物の用途 | 住宅
構造・規模(階数) | 木造(軸組工法)・地上2階
延床面積 | 112.61㎡

設計趣旨 旧住宅地の中、敷地4面がほぼ隣の住宅に近接しているという条件の中で、プライバシーを保ちつつ広がりを持たせ、これから爆発的に加速するであろう高性能住宅(高气密・高断熱)、省エネ住宅(heat20 G2)として設計した。

リビング上部を大きな吹抜にする事により空間の広がりを与えている。また、子ども達の各個室は扉どころか間仕切壁も造らず、全てカーテンによりプライバシーを確保している。この事により将来時間を追って巣立っていく家族の変化にも柔軟に対応できるようになっている。また、平面だけでは無く立体的にも家全体を一つの空間とする事が、家族の繋がりをより強調すると共に、空調効率UPにも貢献している。

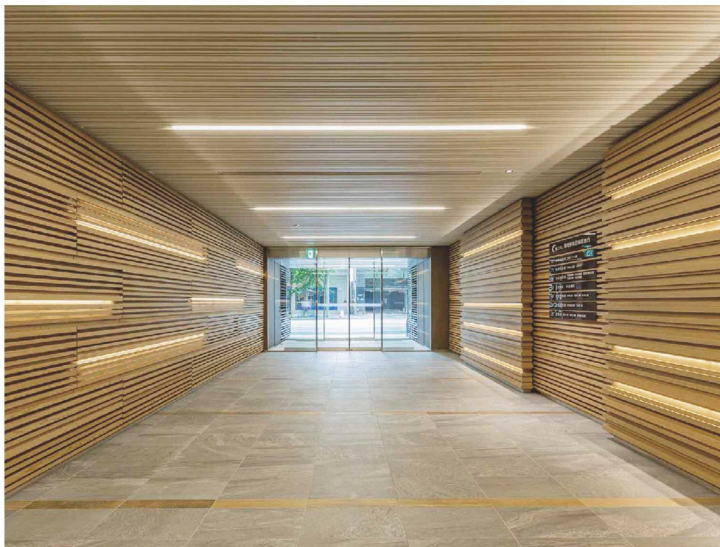
住宅を高性能にする為に、高气密・高断熱は勿論のこと、外壁を熱容量が小さい木材を用いて木質化する事によって、外壁自体の蓄熱量が小さくなり、そもそも断熱材に与える熱負荷を低減し、更なる断熱効果を狙った。

外壁を木質化することにより断熱効果だけでなく、施工時点から既に経年変化を起こしており、新築竣工の時すでに、以前からそこに存在していたかの様な佇まいが醸し出され、地域の風景に馴染んでいる。

木質化の部 優秀賞

福岡県信用保証協会本所

所在地:福岡市博多区



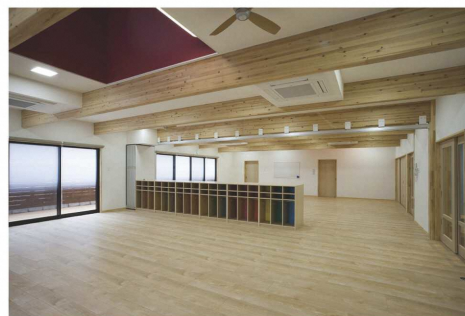
建築主 | 福岡県信用保証協会 会長 山崎建典
設計者 | 株式会社竹中工務店 九州支店 設計部 部長 本村英人
施工者 | 株式会社竹中工務店 九州支店 執行役員支店長 弓削裕治
建築物の用途 | 事務所
構造・規模(階数) | 鉄骨鉄筋コンクリート造・地上9階・地下2階
延床面積 | 5,517.22㎡

設計趣旨
免震改修によって周辺街路に対して入口と駐車場だけとなる1階の面を、機械的に感じる免震装置や駐車場エリアを水平ルーバーで柔らかく覆い、昼は潇洒な佇まいに、夜は温かみと免震建物であることを感じられる構えとした。

エントランスの内装は、来館者を入口に誘い温かみを感じさせられるよう、ライン型のLED照明を組んだ木の量感を醸し出す細角材を横積みとし、免震の動きをイメージ喚起させるよう外装水平ルーバーと連続させている。

木造作は、地震時の動きと干渉しないよう接地面を変えた自立壁で構成し、工場にて小ブロックのパネルに組んだユニットとして現場での加工をなくし、地元産材の杉と桧の意匠を活かした品質の確保と生産性の向上を図った。

特別賞



WIL-BU 山王 所在地:福岡市博多区

建築主 | 有限会社キューベックス 代表取締役 藤嶋正美
設計者 | 株式会社智原聖治アトリエ一級建築士事務所
代表取締役 智原聖治
施工者 | 有澤建設株式会社 代表取締役 木下英資
建築物の用途 | 共同住宅
構造・規模(階数) | 木造(CLTパネル工法+軸組)一部RC造・地上5階
延床面積 | 823.95㎡

設計趣旨

福岡市都市近郊部におけるベット共生型賃貸マンションである。木造建築ならではの調湿調湿効果などベットとヒトが快適に暮らすための建物を目指し、九州初の5階建ての耐火建築物を木造の最新技術であるCLT工法を採用し設計を行った。構造材、造作材すべてのCLTに福岡県産材を使用し、森林と都市部の好循環を目指した。階数が異なる4棟で構成されたこの5階建CLT造を成立させるのにコスト面、施工面、法的側面の工夫が必要であった。木造部分は壁をCLTパネル工法、床・屋根を在来軸組(臥梁)とし平面計画に自由度を持たせた。耐火建築物であるため、CLTに強化せつこうボードt=21の4枚を直貼りしなくてはならず、CLT自体を現すことができないが、「木」の持ち味を表現したく意匠としてCLTを随所に配置した。

上府あおぞら保育園 所在地:糟屋郡新宮町

建築主 | 社会福祉法人未来福祉会 理事長 薄秀治
設計者 | 株式会社野口直樹建築設計事務所
代表取締役 野口直樹
施工者 | 香椎建設株式会社 代表取締役 城戸幸信
建築物の用途 | 保育所
構造・規模(階数) | 木造・地上1階
延床面積 | 928.3㎡

設計趣旨

園舎は都市化する地域と閑静な戸建住宅群の境にあり、敷地の東側は自然豊かな森が存在する。園舎は東西に伸びるシンプルな矩形を配置した木造ラーメン構造の平屋建てとした。遊戯ホールから接続する「パサージュ」と呼ばれる廊下にして各保育室が配置されており、異年齢保育と混合保育が可能なボラスな形態を成している。パサージュは、遊戯ホール、各保育室をつなぐだけではなく「トンネル」とよばれる洞窟や秘密基地のような子どもスケールの場所があり、そこを抜けると外部の園庭に接続し遊戯ホールへと循環する動線とした。子どもたちが触発され五感への刺激を重視した空間を形成し、子どもが毎日通いたくなるわくわくする仕掛けを随所に施した。

奨励賞



平成筑豊鉄道 令和コスタ行橋駅 所在地:行橋市

建築主 | 平成筑豊鉄道株式会社 代表取締役社長 河合賢一
 設計者 | 意匠:株式会社ドーンデザイン研究所 代表取締役 水戸岡鋭治
 構造:JR九州コンサルタンツ株式会社 代表取締役社長 馬場義文
 施工者 | 有限会社エムエスハウゼ 代表取締役 荒木光子
 建築物の用途 | ホーム・待合室
 構造・規模(階数) | 盛土+木造・地上1階
 延床面積 | 8.62㎡

設計趣旨

列車を待つ間に、ゆっくりとやすらぎを与えることができる場を提供し、また利用したくなる気持ちになる空間作りに努めた。

ホーム幅員を可能な限り広くし、駅に賑わいをもたらすイベント(マルシェの開催など)ができるようなスペースを確保した。

農業、林業の更なる活性化を目指し、先述したマルシェの開催による農産物の販路の拡大や、木材の利活用を図ることとした。



写真撮影:石井紀久

Legame 所在地:筑紫野市

建築主 | 個人
 設計者 | KATIS 建築設計事務所 代表 石川厚志
 施工者 | 株式会社江田建設 代表取締役 江田明弘
 建築物の用途 | 住宅
 構造・規模(階数) | 木造一部鉄骨造・地上1階
 延床面積 | 113.43㎡

設計趣旨

「Legame」はイタリア語で「絆・つながり・結びつき」という意味がある。

LDKと座敷の天井は左右対称の垂木現しの傾斜天井とし、リビングと座敷の仕切り戸の上部をガラスとすることで、あたかもひとつづきの部屋のように感じられ、一体感と垂直方向の解放感を生み出している。LDKと座敷の天井の化粧垂木や棟木と和室の柱を現しとし、木のぬくもりが感じられるようにした。

これまでの 建築賞

第1回

大賞
(木造の部)
東長寺 五重塔
所在地:福岡市
建物の用途:寺院
写真撮影:藤本健八

大賞
(木質化の部)
九州芸文館・アネックス2
所在地:筑後市
建物の用途:陶芸工房

第2回

大賞
(木造の部)
森のおうち保育園
所在地:福岡市
建物の用途:保育園
写真撮影:イクマサトシ

大賞
(木質化の部)
嘉麻市立 嘉穂小学校
所在地:嘉麻市
建物の用途:小学校

第3回

大賞
(木造の部)
平尾保育園
所在地:福岡市
建物の用途:保育園
写真撮影:Blitz Studio 石井紀久

大賞
(木質化の部)
福岡女子大学 図書館棟
所在地:福岡市
建物の用途:図書館
写真撮影:SS九州 上田新一郎, SS東京 走出直道

第4回

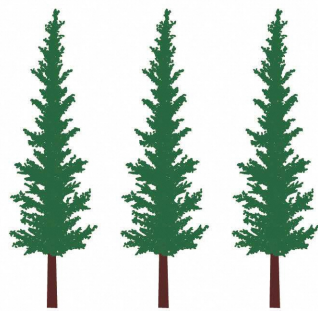
大賞
(木造の部)
聖恵ビハラー
所在地:古賀市
建物の用途:医療施設
写真撮影:松竹写真事務所・ARM

大賞
(木質化の部)
八女の家
所在地:筑後市
建物の用途:住宅
写真撮影:大野博之

第5回

大賞
(木造の部)
里山ながや・星野川
所在地:八女市
建物の用途:賃貸住宅

大賞
(木質化の部)
久山町立 けやきの森幼稚園
所在地:久山町
建物の用途:幼稚園
写真撮影:イクマサトシ



2019 第6回福岡県木造・木質化建築賞

令和2年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3549 FAX092-643-3541

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/mokuzou6panfu.html>

この冊子の用紙は、福岡県産の間伐材を使用しています。

福岡県行政資料	
分類記号	所属コード
PF	4701002
登録年度	登録番号
31	0001